

# JSSG

## インフォメーション Vol.22

事務局

東京都中央区日本橋本町4-9-11(株式会社JOMOエンタープライズ内)  
Tel.03-5847-7638 Fax.03-3249-3626  
E-mail:jssg-office@jssg.jp URL:<http://www.jssg.jp>

## 特集

油漏れ事故の不安を解消するために。

### 老朽タンク、失敗しないための4つの対策。No.2

編集・発行:JSSG事務局 発行日:2007年6月1日

SF二重殻タンク検知層検査に「減圧法」認められる。

### 消防庁「危険物の規制に関する規則等」を一部改正。

総務省消防庁では、危険物の規制に関する規則等を一部改正し、二重殻タンク検知層検査法として、JSSG等がかねてから提案していた「減圧法」をSF二重殻タンクに限り認め、平成19年4月から実施できるようになりました。

また、「地下貯蔵タンク、二重殻タンクの強化プラスチック製の外殻及び地下埋設配管に係る漏れの点検実施要領」も一部改定し、二重殻タンク検知層検査時の加圧速度または減圧速度は、1分間に1kPaの速度で行うこととしています。

JSSGでは、財団法人全国危険物安全協会の委託を受け、平成19年2月19-20日の両日、「鋼製強化プラスチック製二重殻タンク検知層の点検方法」に関し、

加圧法と減圧法の比較実証試験を、営業中のSS2カ所で行いました。試験結果については加圧法・減圧法とともに良好との結論を得ることができました。この試験の詳細については、また号を改めてご紹介いたします。



## 北海道固有の設備

### 「地下タンクに溶接された鋼製プロテクター」が、異常の原因。

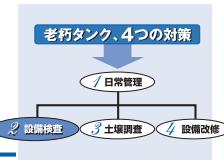
平成19年2月に札幌市内のSSで気密検査を行った結果、異常と判定されたため、JSSGが協力しタンクを掘り上げ、札幌消防局立会いの下に検証したところ、タンクは全く正常であり、検査方法についても問題がなく、タンク本体と鋼製プロテクターの接合部が異常の原因と判定されました。

この結果を受けて当局では、今後こうした不都合が起きないよう対応したいとしています。



# 「老朽タンク、失敗しないための4つの対策」

## 第2回:設備検査「安全・確実な気密検査の実施」



前号は、特集の第1回として「日常管理」を取り上げ、在庫管理と漏えい検査管の点検を中心にご紹介しましたが、先日、九州のSSで油漏えいの発見が遅れ、修復対策に巨額な費用と時間がかかるという事故が発生しました。

この事故はNHKの朝のニュースでも取り上げられましたので、ご存知の方も多いと思われます。今回の事故は、日頃点検を実施していたつもりでも、設備が正常に機能していなければ大事故につながるという恐ろしさを物語っています。



### 適切な在庫管理と漏えい検査管の点検を徹底。

本紙前号でもご紹介しましたが、日々の適切な在庫管理および漏えい検査管の点検を確実に行なうことが、油漏えいの未然防止と早期発見のポイントとなります。また、下段の記事のとおり、地下タンク・配管気密検査の点検サイクル緩和措置を受ける条件にもなっています。

漏えい検査管の点検では、ウォーターペーストによる水の検知や油膜・油臭の確認といった本来の点検のほか、検査管頭部の蓋があるのか、開かない蓋はないかなどの機能点検も大切です。蓋がない検査管は機能不全を起こしていると考えてもほぼ間違いないありません。

また、検査管も長い間には土砂などが溜まり目詰まりを起こしていることが考えられます。次のような方法で漏えい検査管の機能点検を行ってはいかがでしょう。

- ①漏えい検査管に水を満パイになるまで入れて蓋をします。
- ②そのまま一日放置します。
- ③一日おいて蓋を開け、水が減っていないか、他の検査管と水位のばらつきがあった場合は、検査管が正常に機能していないことが考えられます。

このような結果が出た場合は、新しい漏えい検査管を直ちに設置する必要があります。

### 改正消防法令に基づく気密検査の実施。

#### (1) 改正消防法令のポイントは二つ。

二つのポイントとは、鋼製タンクにおける気密検査の実施時期と点検の範囲です。まず、実施時期については、地下タンク設置後15年以内は3年に1回以上の点検、15年を超える設備は1年に1回以上の点検となります。

ただし、「点検実施計画書」を作成し所轄消防署へ届出を行い、週1回以上の在庫管理と漏えい検査管の点検を行い記録しておけば、3年に1回以上の点検に緩和されます。

点検の範囲については、気相部だけではなく液相部の点検も行うことと明確に規定されました。これに伴い点検方法についても新たに規定されています。

※気相部:地下タンク内では燃料油に接していない空間部で外部の地下水に水没していない部分。

※液相部:地下タンク内では燃料油に接している部分、または外部で地下水に水没している部分。

# 「老朽タンク、失敗しないための4つの対策」

## 第2回：設備検査「安全・確実な気密検査の実施」



### (2) 検査会社を価格だけで選ぶのは危険。

液相部点検が厳格に規定されたため、従来の点検方法に加え、「直徑0.3mm以下の穴からの漏れを検知できる点検方法」が設けられ、国の指定機関(全国危険物安全協会)の認定を受けた新しい点検方法が登場してきました。しかし、そのどれもが同じ点検結果が得られるとは限りません。

また、新規参入等から検査会社も増え、価格競争に走る会社もみられます。価格だけで検査会社を選ぶことは危険です。地下タンクや埋設配管は文字どおり地下に埋まっており

見ることはできず、検査結果について確認することはできません。

さらに検査時間を短縮するために加圧速度や減圧速度を速め、設備の損傷や実際の状態とは異なる検査結果を導き出すおそれもあります。安全で確実な検査会社を選ぶことが肝要です。JSSGでは、日本の基準より厳格なEPA(米国環境保護局)の基準をクリヤーしているETI社の「バキュテクト方式」をおすすめしています。

### (3) 点検実施日を有效地に活かす。

地下タンク設備の点検は、営業に影響が少ない夜間にやって欲しいという要望がいまでも多いようですが、必ずしも得策ではありません。夜間作業は、なんといっても作業に従事する人に日中以上に作業負荷がかかり、安全面の問題や作業精度にも影響、当然のことながら割増料金も請求されます。

改正消防法令以来、点検時間も地下タンク設備1系統当たり2~3時間要するようになってきておりますので、点検実施日は休業として、SS設備の一斉点検日としてはいかがでしょう。そのほか、フィールドのひび割れの補修、店頭販促ツールの入れ替えなど、店頭の化粧直しを行ういい機会にもなります。

### (4) 支援制度の活用。

地下タンク設備の点検費用には、公的支援制度があるのはご存知でしょう。「土壤汚染検査検査事業」のなかで、「地下タンク・埋設配管の漏れの点検」と呼ばれるもので、年間6千件程度の利用があるといいます。費用補助の割合は基準単価の2分の1、または補助

対象実績額の2分1のいずれか低い額。補助の上限は年間50万円。大いに利用する価値あります。

利用するための申請手続きや問い合わせは、地域の石油組合または全国石油商業組合連合会(全石連)となっています。

## JSSGメンバー玉田工業が第1号を取得。

# 「鋼製地下タンクFRP内面ライニング事業者認定制度」がスタート。

平成19年2月に消防庁危険物保安室長から「鋼製地下タンクの内面保護に係るFRPライニング施工に関する指針（消防危第48号）」が示され、この施工を行なう事業者の健全性を確保するための事業者認定制度が、このほど始まりました。

認定機関には、財団法人全国危険物安全協会が

あたり、その第1号として、JSSGメンバーの玉田工業株式会社（認定番号1701号）が認定されました。

なお、鋼製地下タンクFRP内面ライニングの施工については、「土壤汚染環境保全対策事業」の補助対象となっていますが、この認定事業者が施工を行うことが条件となっています。

## 「SSビジネス見本市」に、JSSGメンバー3社が出展。

毎年、全国石油商業組合連合会（全石連）総会に併せ開催されている「SSビジネス見本市」は、平成19年5月25日（金）、風光明媚な琵琶湖湖畔に併む大津プリンスホテルで行われました。

同見本市は4回目を数え、年を追うごとに出展企業も増加し、今年は62社・団体が出展、JSSGメンバーからも玉田工業株式会社、株式会社ジャパンエナジー、株式会社JOMOエンタープライズの3社が出展いたしました。

午前11時から午後6時まで催されました。終日人波が絶えることなく、JSSG3社のブースも賑わいを見せていました。JOMOエンタープライズのブースでは、エコロジーとエコノミーを両立

させた画期的なSS照明「VLC-HIDシステム」のデモ展示が行われ、大きな関心を集めています。なお、同システムはCO<sub>2</sub>排出量を低減化する環境貢献商品であることから、発売元であるJOMOエンタープライズのほか、玉田工業、明治コンサルタント、エンバイロ・テック・インターナショナルのJSSGメンバー3社も販売取扱店となり、普及に努めることとしています。

また、同ブースでは、JSSGに関するパネル展示やパンフレットの配布も行われ、SSにおける土壤環境保全の大切さをアピールしていました。盛況裡に終わった同見本市、来年は富山市に舞台を移し開催される予定です。



「VLC-HIDシステム」が関心を集めたJOMOエンタープライズのブース。



地下タンクのライニング工事の過程を写真で展示了玉田工業のブース。



「OIL de ECO」をアピールするジャパンエナジーのブース。他社マークの方々にも人気。



終日、賑わいを見せた展示会場。



展示会場の外では、滋賀県の特産品も即売。